

桜 島

○火山活動度レベル

火山活動度レベルは 2 (比較的静穏な噴火活動)でした。

概 況

噴火はありませんでした。火山性地震の発生は少ないなかで、A型地震はやや多い状態が続いています。GPSによる地殻変動観測では、昨年11月頃から今年2月にかけて各観測点間の距離の伸びがやや加速する傾向が見られましたが、3月は伸びの傾向が緩やかになりました。

噴火活動の状況

噴火はありませんでした。

噴煙活動の状況

時折、火山灰を含んだ乳白色または灰白色の噴煙が観測されました。灰白色の噴煙の最高高度は25日の300mでした。

地震・微動活動の状況

震動観測点B点(南岳火口の北西約2.3km)での火山性地震の月回数は、231回(2月：205回)でした。このうちB型地震は218回(2月：172回)でした(図1の、)。

震源が求まったA型地震は8回で、そのうち4回が南岳火口東部約1.5km付近の海面下3～4kmに分布しました。その他は南岳火口周辺の海面下0～3km付近に分布しました。(図3)

火山性微動は4回発生し、継続時間の合計は6分間でした(2月：なし)(図1の)。

降灰の状況

鹿児島地方气象台(南岳の西南西約11km)の観測では、降灰はありませんでした(2月：なし)(図2の)。

地殻変動の状況

GPSによる地殻変動観測では、昨年11月頃から今年2月にかけて各観測点間の距離の伸びがやや加速する傾向が見られましたが、3月は伸びの傾向が緩やかになりました(図4)。

火口の状況

2日、海上自衛隊鹿屋航空基地救難飛行隊の協力を得て、上空からの観測を実施しました。火口内の状況は、前回(平成16年11月22日)の観測時と特に大きな変化はありませんでした。観測時、噴煙は白色で火口内に留まる程度でした。B火口は、前回の観測で斜面崩落により土砂が堆積していましたが、今回もほぼ同様の状態でした(写真1,2)。

今回の上空からの観測で、南岳火口内の熱映像観測を初めて行いました。B火口の噴気地帯の温度を参考までに実測値で示しました(写真2)。A火口は噴煙のため、火口底の状況は不明で、熱映像観測はできませんでした。



写真1 2004年11月に南東方向から撮影した南岳火口

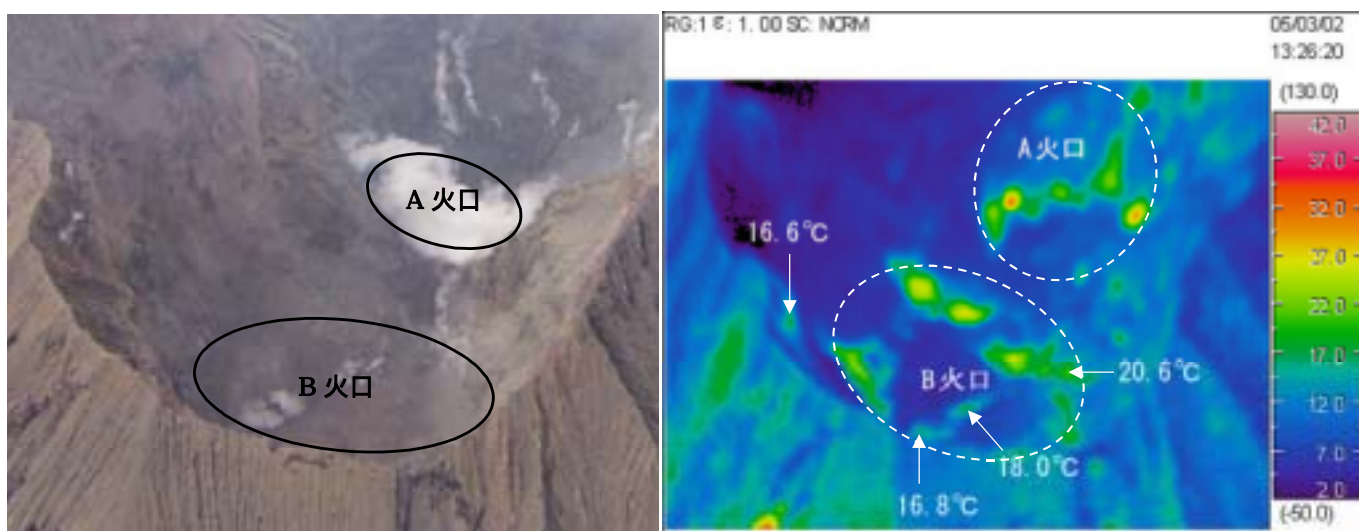


写真2 2005年3月に南東方向から撮影した南岳火口の可視画像(左)と熱映像(右)
熱映像中の温度の値は、実測値を示す。

撮影は海上自衛隊鹿屋航空基地救援飛行隊の協力を得て行った。

(熱映像は赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、大気その他の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある)

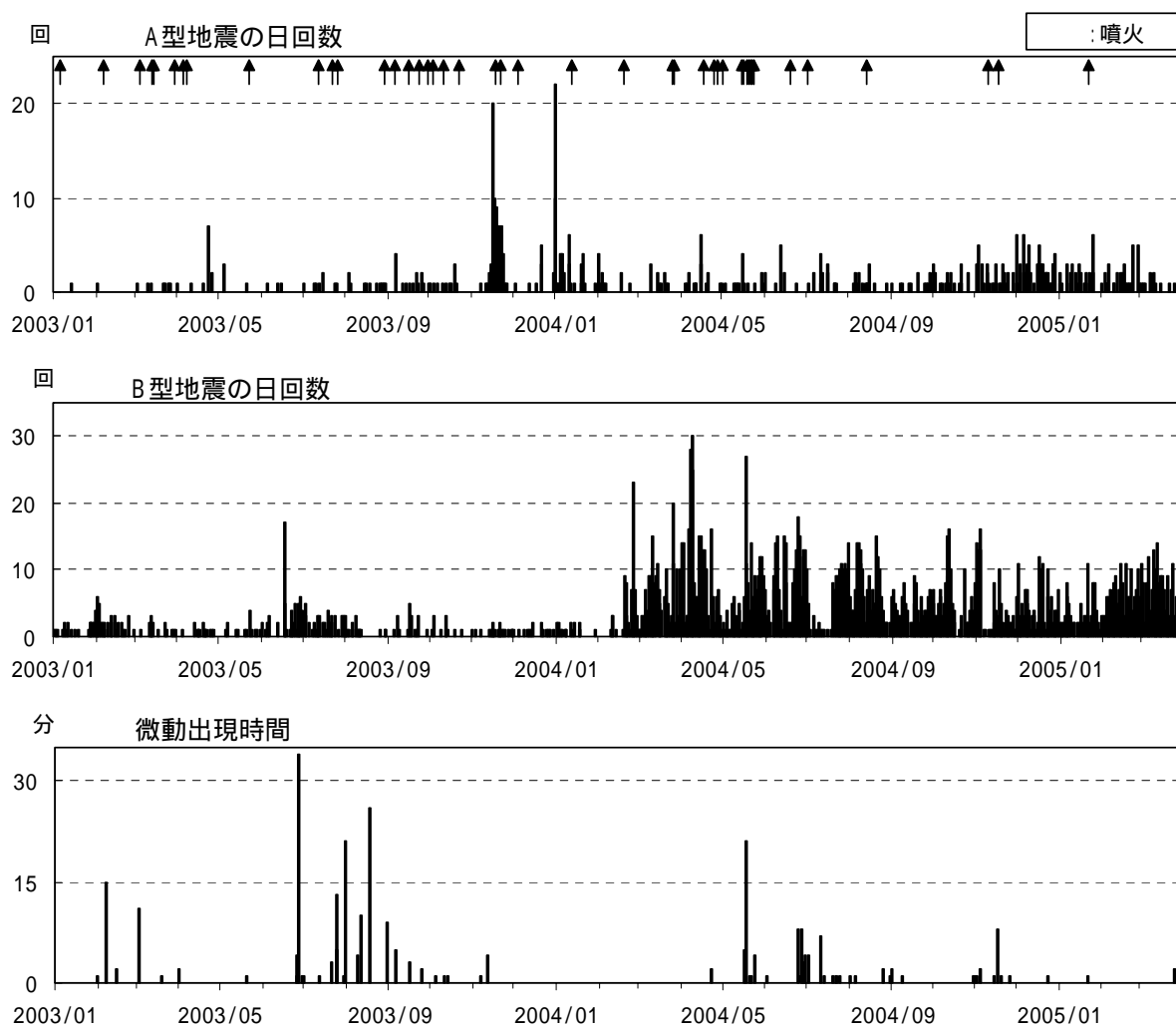


図1 火山活動経過図(2003年1月～2005年3月)

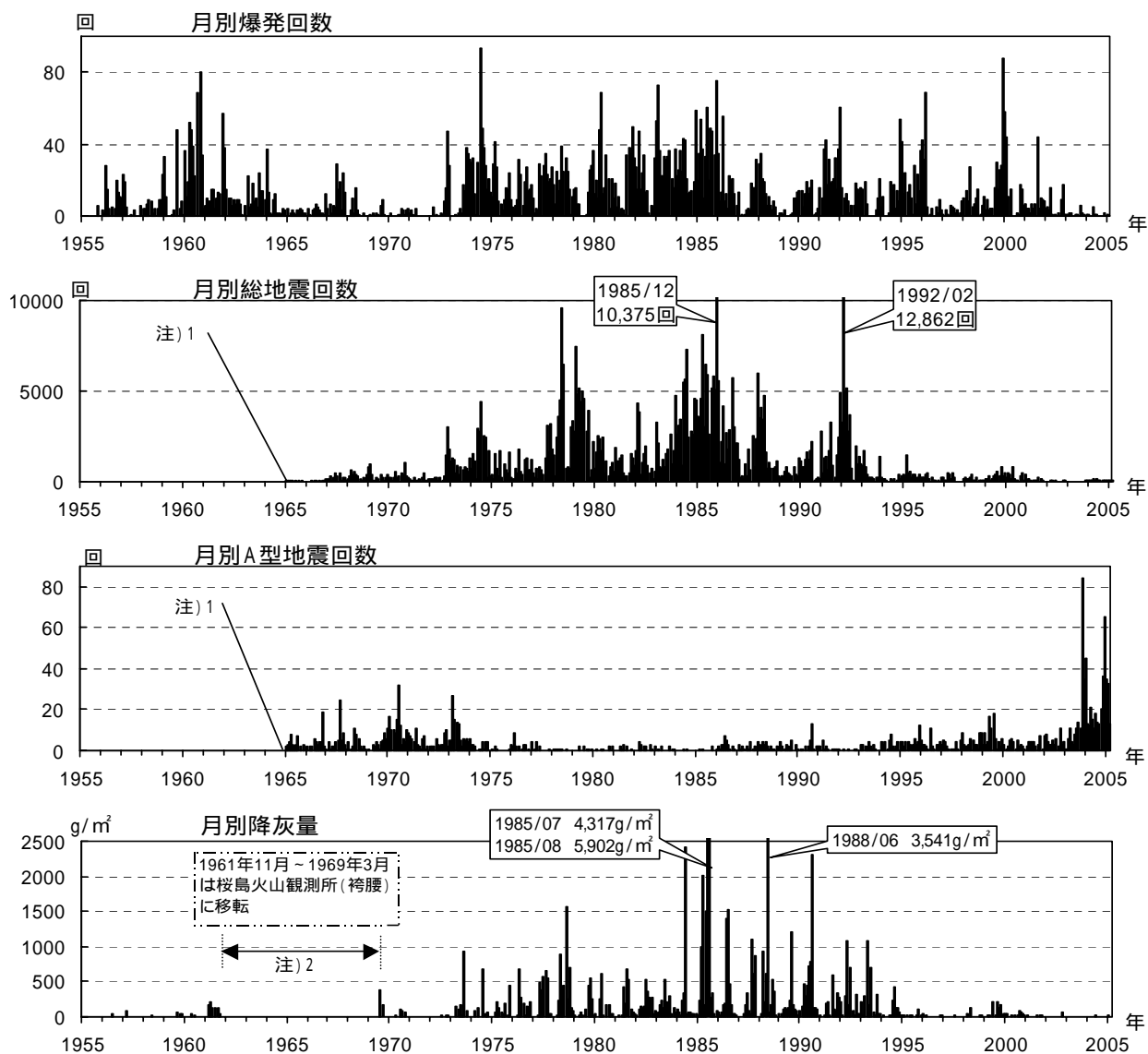


図2 火山活動経過図(1955年1月～2005年3月)

注)1: 震動観測点A点における総地震回数およびA型地震回数は、1965年からのデータをグラフに示した。

注)2: 気象台での降灰量の観測は1994年2月24日までは鹿児島市荒田1丁目、同年2月25日以降は同市東郡元町において行なわれた。なお、1961年11月から1969年3月までは桜島に観測所を移転したため降灰量の統計は中断した。

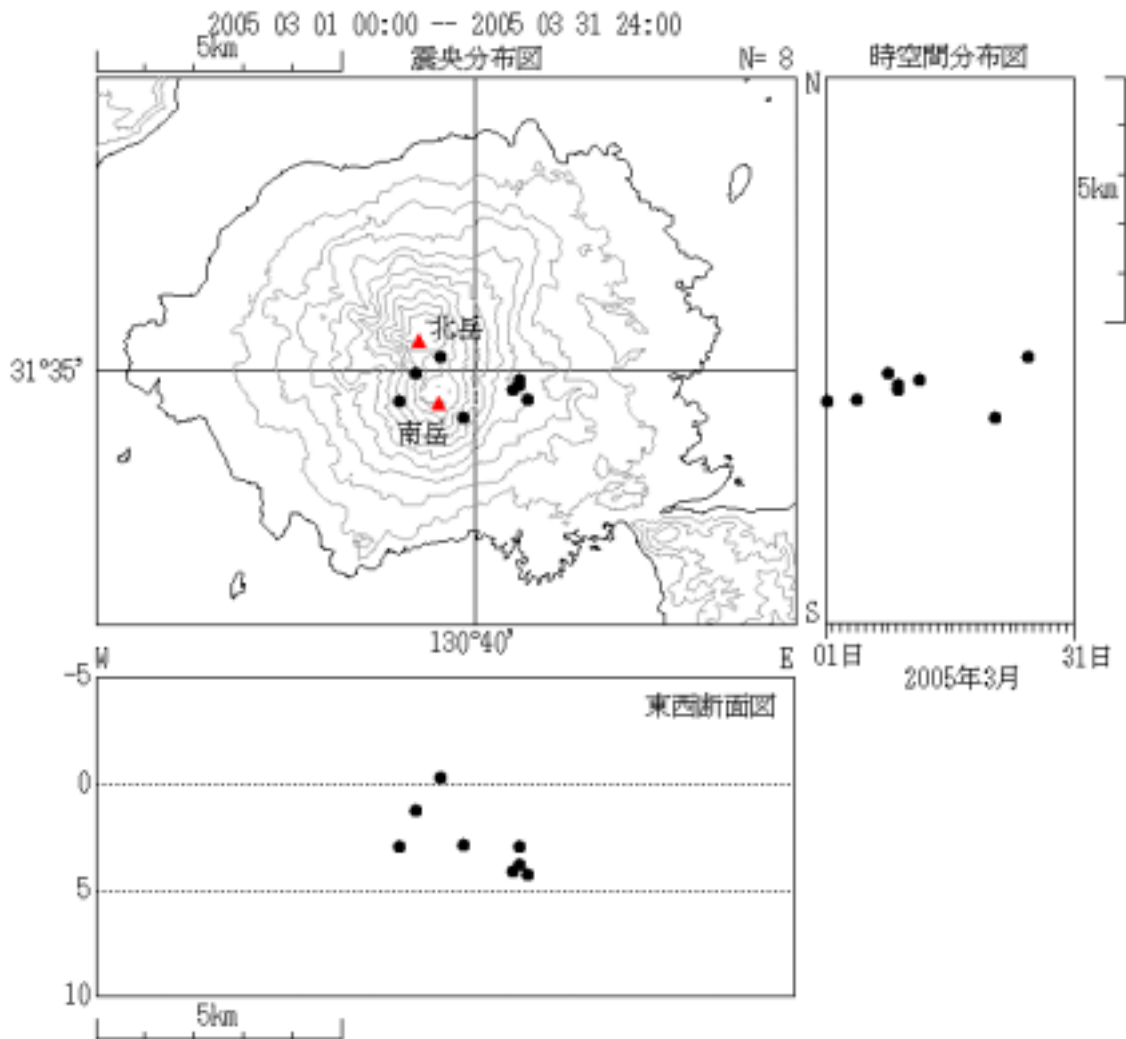


図3 震央分布図(上)と東西断面図(下)、時空間分布図(右)
(2005年3月1~31日)

本資料は、鹿児島大学、気象庁のデータを用いて作成している。

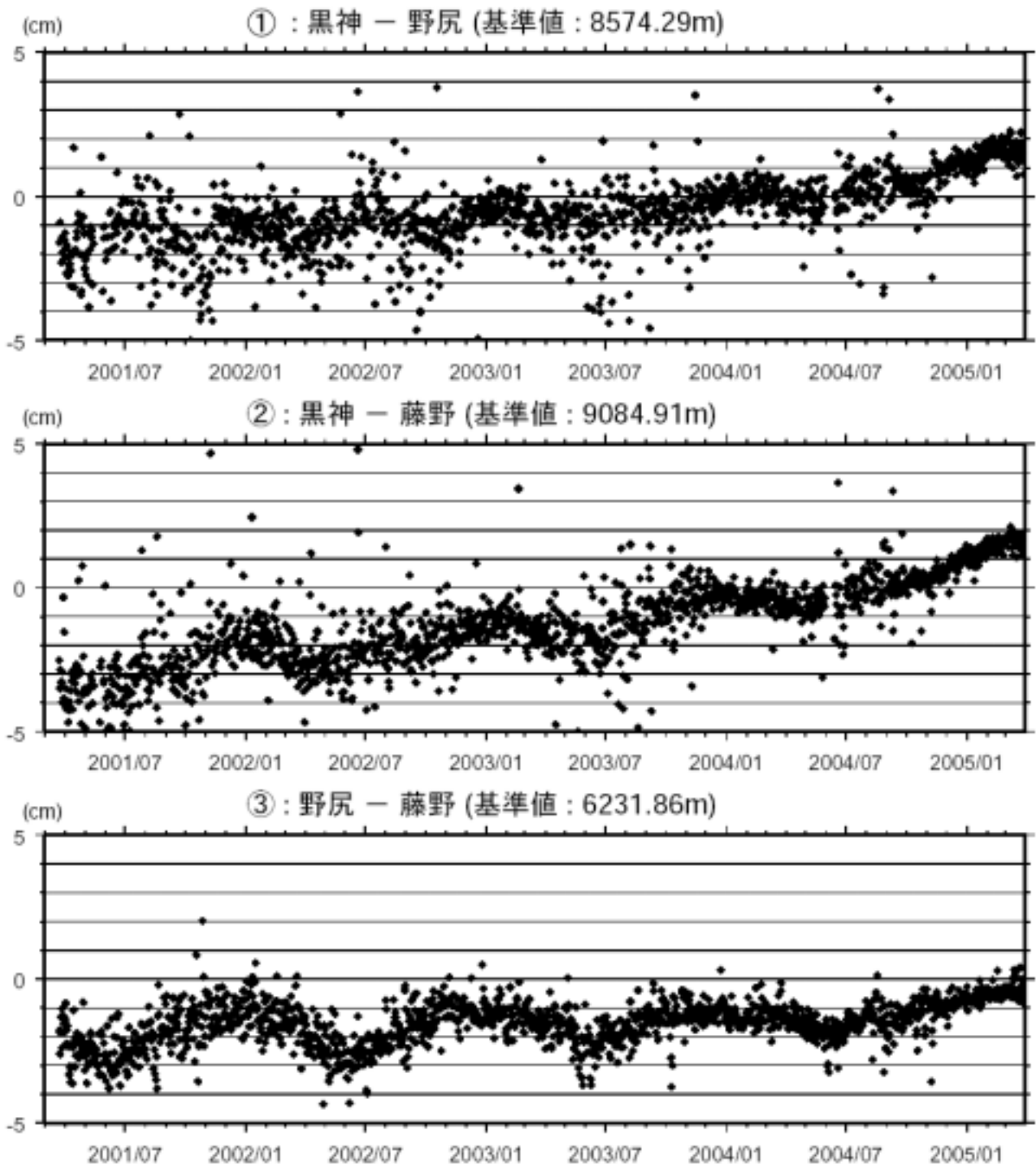


図4 GPSによる基線長変化(2001年3月22日~2005年3月31日)

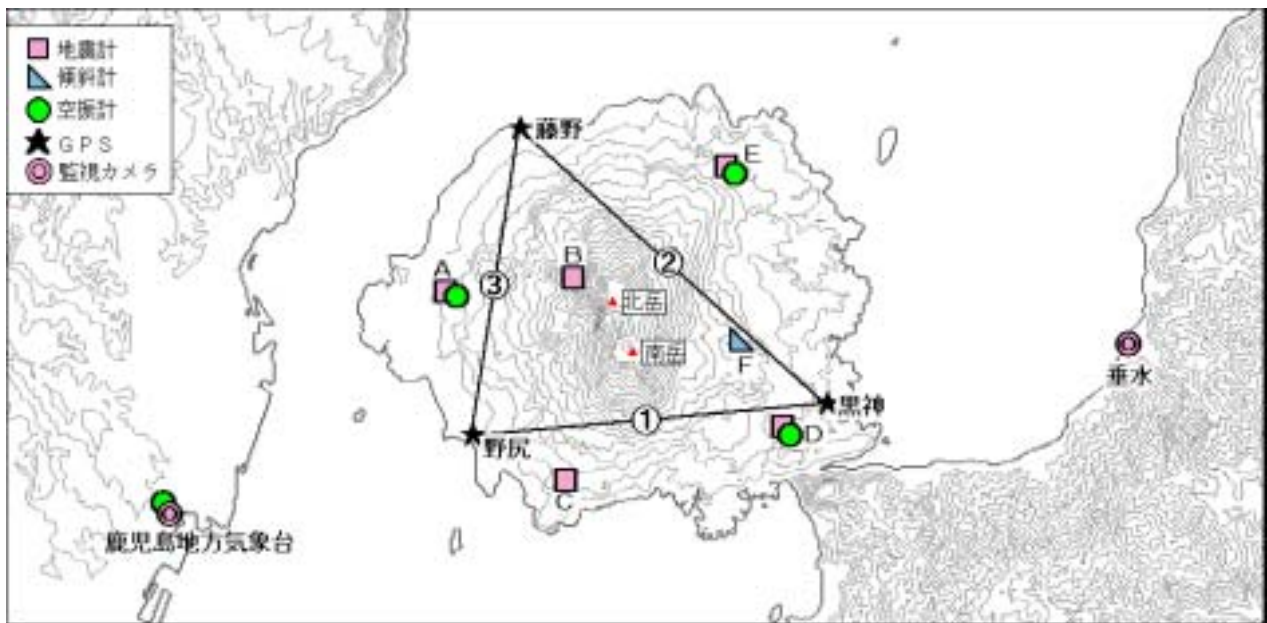


図 5 観測点位置図